

[果樹部門 令和4年度 指導参考資料]

事項名	モモせん孔細菌病の春型枝病斑の発生時期と切除する枝の特徴		
ねらい	モモせん孔細菌病の防除のためには、一次伝染源である春型枝病斑の早期切除が重要である。本県における春型枝病斑の主な発生時期は4～5月とされてきたが、調査の結果、その後も発生が続くことを確認し、さらに、春型枝病斑として切除する枝の特徴を明らかにしたので、参考に供する。		
指導内容	<p>1 春型枝病斑の発生時期 主な発生時期は4～6月であり、7月以降も発生がみられる。</p> <p>2 切除する枝の特徴 結果枝（1年枝）にできる紫褐色の病斑のほかに、次の特徴がみられる枝も病斑が発生する、又は発生しているので切除する。</p> <p>(1) 開花や展葉等の生育の遅れがみられる枝 (2) 芽や幼果、枝先が枯死している枝 (3) 亀裂のある枝</p> <p>3 春型枝病斑の切除 (1) 春型枝病斑の発生は、長期に渡って続くので、定期的に園地を見まわり、発生を見つけ次第、枝ごと切り取って処分する。 (2) 春型枝病斑が発生した枝は、枝が枯れ込むこともあり、結果枝としては不適當であることから、必ず切除する。</p>	 <p>春型枝病斑（紫褐色の病斑）</p>	
期待される効果	春型枝病斑が適切に切除されることでモモせん孔細菌病の発生が軽減される。		
利用上の注意事項	<p>1 モモせん孔細菌病の防除のためには、薬剤散布と耕種的防除を組み合わせた総合的防除の徹底が基本となる。</p> <p>2 モモせん孔細菌病の発生が多かった園地では、翌年の春型枝病斑の切除を考慮して、冬季剪定はやや軽めに行い、結果枝を確保する。</p>		
問い合わせ先（電話番号）	りんご研究所 県南果樹部（0178-62-4111）	対象地域及び経営体	県内全域のもも作付経営体
発表文献等	令和2、3年度 りんご研究所試験研究成績概要集（特産果樹）		

【根拠となった主要な試験結果】

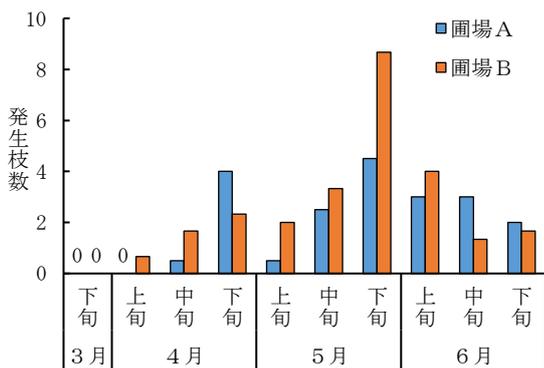


図1 春型枝病斑の時期別発生枝数
(令和2年 青森りんご研県南果樹)

(注) 圃場Aでは2樹(22年生)、圃場Bでは3樹(23年生)の「川中島白桃」を供試し、春型枝病斑の発生枝数を時期別に調査した。結果は2樹又は3樹の平均値で示した。

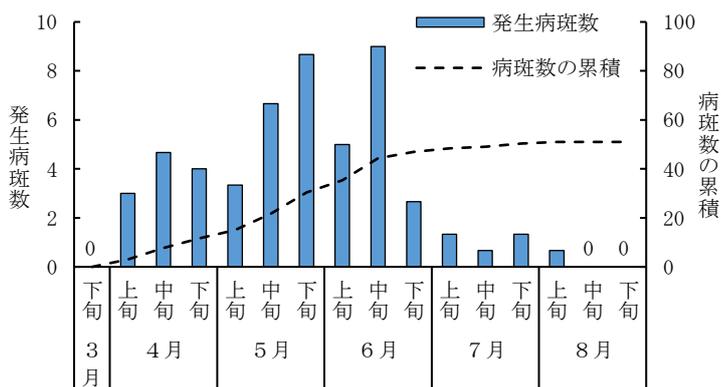


図2 春型枝病斑の時期別発生病斑数
(令和3年 青森りんご研県南果樹)

(注) 「あかつき」、「川中島白桃」、「大久保」の各1樹(5年生)を供試し、春型枝病斑の発生病斑数を時期別に調査した。結果は3樹の平均値で示した。



図3 開花や展葉の遅れがみられる枝



図4 芽や幼果、枝先が枯死している枝



図5 亀裂のある枝